廿歳で眼の開た令嬢の初めて見た世界

（生後二日目に失明したのが突然開いた）

永代美知代

生理的、心理的に感受した新しい歡喜と恐怖と戰慄との驚くべき實際的經驗

アメリカのマーブルヘッドのさる學校に學んでゐる私の友人から、此程その町に起つた非常な奇蹟に就いて、次ぎのやうな私信が到着した。それは其町で名高家のリンコルン家の令嬢で生れて二日目に失明したのが、或日突然物の姿を認め得るやうになつた。最初、右の眼が見えて、二日目に左の眼が全く自由に開いたと云ふのである。生後二日目に失明したのであるから、彼女は二十歳の今日になつて、初めて世界の物象と色彩とを眼にしたのである。初めて見た世界の有樣はどんなに彼女の心を動かしたか、彼女にどんな印象を與へたか。これは確かに心理學者にも、生理學者にも、その外誰にでも深い興味を喚起させる問題である——私の友人はわざ〳〵リンコルン邸を訪問して、邸の有りの儘の感想を次ぎのやうに私に書き送つたのである。

初めて慈母の顏を見た時は死ぬるほど恐ろしく感じた

『陶器棚の前で、お皿を手さぐりしてゐますと、ふッと、右の眼に光が差し入つたのです。寧そ恐しいやうな感じがして、私は今すこしで其の皿を投げる位でした。振顧ると、食堂の卓子の傍に女の立つてゐるのが見えたぢやありませんか——容子で私はすぐそれが自分のお母さんだと判つたのです。

私は幼さい時から可愛がつて育てゝくれた母ですのに、そして母は優しい顔ですのに、どうしたと云ふのでせう、私はもう死ぬるほど怖しくつて、大きな叫聲を立てたまゝ、部屋の隅の長椅子へ自分の顔を埋めて、激いこと泣きだしました。「お母さん彼方へ行て！〳〵」

その時の心持は、私と同じ樣に、生れてすぐ失明して二十年も經つてから、急に眼の開いた人でなければ解らないでせう。』

令嬢は櫻色した絹の著物を細そりした身體に著け、愛らしい色眼鏡をかけてゐた。

『だん〳〵光に馴れゝば、除つても可いのですけれども、些少除つて見ませうか。』

綺麗な指をあげて、眼鏡を除る。その美くしく大きな碧の眼は、眩しげに瞬した。初めて見る世界の象に對して、尚ほ絶えず物耻をしてゐる姿である。

聽覺と觸覺とが急に退化し水も卵もみな怖しかつた

ボストンの名眼科醫、ヘンリー・ホーキンス博士は開いた令嬢の眼を檢して『あなたは生れたての時瞼に出來た睫物のために失明したので、爾來あなたの瞳は、絶えずその傷痕の下から、光を見やうとして焦つてゐたのです。その願が二十年目で叶つたのだ。』と云つた。然しリ

ンコルン嬢は、そんな當り前の説明で自分の上に生つた奇蹟を品評されるのは嫌だと云ふ。この奇蹟は、自分と、母親との二十年間の熱心な祈禱に答へた神の御業だと、令嬢は固く信じて動かない。

『眼が開いて四五日の間、私はまつたく聾でした。盲目の間中あんなに微細な物音まで明瞭聞てえてゐたものが、當座全く聞えなくなつて了つたのです。それから觸覺ですね、變に指先きの感覺が無くなつた樣に感じました。

幾日かの間、食事もできませんでした。食物の形があんまり變なのですもの。最初食卓に卵の出た時なぞは、グル〳〵眼が廻るやうで、食べるのは勿論見てゐることもできませんでした。それからコップの水が飲めないのです。初めて水を見た時は、何だか恐なくて、大方コップを取り落しさうでした。今でも、眼を瞑つてゞなければ、お水を頂けないのですよ。

靜物はそんなでもありませんけれど、何でも動いてゐる物を見るのは、隨分苦しいのです。靜物は怖しくはありません。盲目の世界はそれは本當に靜的なのですからね有の儘に申し上げれば、生れてすぐ盲目になつた人の、頭腦にある世界ほど樂しいものはありません。と云つて折角見えるやうになつた眼が、も一度見えなくでもなれば、それこそ私、氣狂になるでせうけれどもね。』

『御覽なさい』といふ言葉を口にする誇とその恥しさ

『眼の開いた當座、誰の顏でも人の顏を見るとぞッとするほど恐しうございました。で、ドクトルの忠告で、一週間ばかり眞暗い部屋へ入つて、成るべく物を見ないやうに人に出會はないやうにしました。急に刺戟されるのを避けたのです。今でもまだ〳〵、何を見ても〳〵のぢやないんです。第一にまだドクトルは、海を見ることを許しません私はこれまで幾冬も〳〵、マーブルヘッドの海の吼り聲ばかり聞いてゐたものですから海といふものは、大きな動物――宅の猫のサミュエルのやうでゐて、そして世界ほど大きいものが海だと想像してゐたのです。早く見たい、本當の海が！』

サミュエルは、令嬢の寵兒で、大きな、黃色い牝猫である。今も令嬢の足許に長くなつて横つてゐる。

『まア御覽なさい、可愛いぢやありませんか。』

令嬢は、自分の口にした『まア御覽なさい』といふ言葉に氣づいて、美くしい顏をやゝ赧く染めた。それは恰度、漸と舌の廻るやうになつた幼兒が『ワン〳〵をでらんちやい』『猫をでらんちやい』と云ひ得るのを誇るのと同じ心理狀態に、自分の在ることを覺つたからである。

『眼の見えない兒を持つたお母さん達には、屹度私の經驗が參考になりませうよ。』

さう云つて、令嬢は嬉しい微笑を漏らした。

單純な心に宿る信仰の言を誰か徒に笑殺するものぞ

『私は幼さい時分、ボストンのパーキンス盲學校へ勉强に行つたのですけれど、歸つてくると次第に皆な教はつた事を忘れちまいました。これから又、自分で勉强の爲直しをするつもりなのです。今のところではまア、オルガンが彈ける位のものです。えゝ、耳で習つたばかりですのよ。あなた、一つお聞かせ致しませうか。』

令嬢は、大きな、立派なオルガンの傍へ進み寄る。好い體格なのだが、長い間手さぐりで覺束なく歩いてゐた慣習のため、足取はどことなく、たど〳〵しい。『最初キーを見ました時は、矢張り恐しくつてとても彈けませんかつたのよ。』

その譜はニューマンスの『光よ われを導け』といふのであつた。冒頭の數節が、澄み亙るアルトの聲で唱はれた。

『本當に奇蹟だとお思ひにならなくて？ 私これまで何時でもかうなると信じて祈つてばかりゐましたのよ。「神は禱に答へたまはむ」一度だつて私、藥を使やしませんでした。』

單純な信仰から出る。この令嬢の言葉を誰か迷信とのみ笑殺し得よう？

（土浦松葉病院のニコニコ看護婦君）

『私、眼が開いて初めて日曜學校へ出た時の氣持は一生忘られませんわ。クラスの皆樣は、私が何時も眼の開くやうにお祈してゐることを知つてらつしやるのでせう？ ですから私、その日は厚いヴエールをかけて學校へ出ました。「私、あなた達が見えてよ」さう云ふと皆なまアどんなに喫驚したでせう？ その證據に皆なの著物の柄だの色だのを當てたものですから、辛と私の眼が開たと知れたのです。あゝあの朝の嬉しかつた事！ 先生の感謝の祈はまだ此の耳に聞こえてゐるやうです。』

令嬢の眸には、敬虔と、感謝と信仰との美くしい閃が見えた。

子供ほどに可愛らし、者も男ほどに滑稽な顏も無い

『夏になれば、私は愈自分の勉强を初める心算でゐま